

「ドングリの花(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

スダジイ *Castanopsis sieboldii* は、ブナ科の常緑広葉樹だ。一年中葉をつけているので、公園や街路樹の植木として好まれ、東京でもごく普通に見られる。



スダジイの果実(堅果)は、あまりドングリらしくない。コナラやシラカシのような「帽子」がなく、マントを被ったような姿をしている。時には一つのマントに2個以上の実が入っていることもある。この実は、生でも食用に

なり、栗の実とそっくりの味がする。

スダジイは常緑広葉樹だが、決して「落葉」しないわけではない。秋に「紅葉・落葉」しないだけで、「落葉」はある。それが、新しい葉が出てくる今の時期なのだ。



お茶の水女子大学構内や、本校(小学校)の敷地内にもスダジイは多い。写真は附属幼稚園脇から、大学南門に向かう道にあるスダジイの樹だ。樹木全体が白っぽく見えるのは、ちょうど花が咲いていることもあるが、この春に出た新しい葉が、淡い色をしていることも原因である。



この時期、スダジイの樹の根元を見ると、たくさんの落ち葉があるのがわかる。常緑樹は春の新緑の季節に落葉するものが多く、ブナ科の樹木もそのような性質があるのだ。



小石川植物園にもスダジイの巨木がある。大学や小学校のスダジイは、高い枝に花がつくので、触ることも近くで観察することも難しい。しかし、植物園のスダジイはこのように手の届く高さの花をつける。



梢の先端を観察すると、面白い。昨年からある古い葉と、この春に出た新しい葉の色の差が歴然だ。硬さやつやもまるでちがう。このような新緑の時期に、スダジイは花をたくさん咲かせる。